

景気観測(LOBO)

《2017. 7~9月》

平成29年度 第2四半期

日立商工会議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合 (%)
製造業	25	25	100.0%
小売業	30	22	73.3%
建設業	20	18	90.0%
サービス業	25	18	72.0%
計	100	83	83.0%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項 売上高の推移と変化要因 採算・仕入単価・従業員の変化状況
調査方法	FAXの活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎ LOBOとは

「CCI (Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称です。

◎ DI値 (景気判断指数) について

- ・ DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(△で上向き ▲で下向き)
- ・ 強気、弱気等景況感の相対的な広がり意味着。
- ・ $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

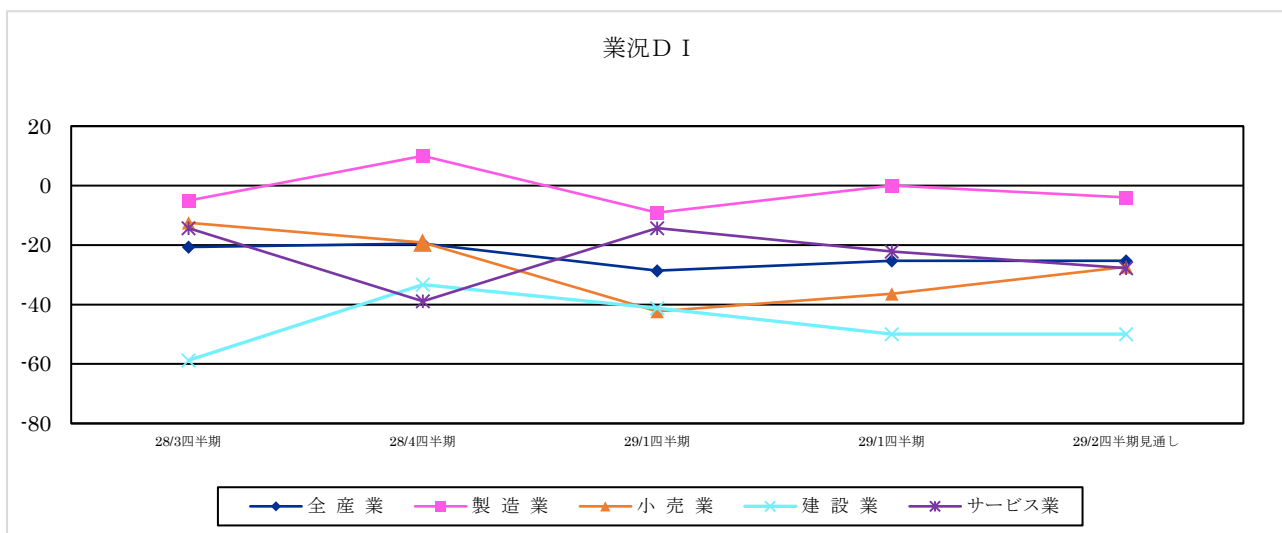
II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲25.3と前回調査時(▲26.7)から1.4ポイント改善した。今後の見通しは▲25.3(前回調査時▲23.3)となり、わずかに悪化傾向となった。
- 製造業では、0.0と前回調査時(▲9.1)から9.1ポイント改善し、前回の見通し(▲4.5)より良い結果となった。今後の見通しは▲4.0とほぼ前回同様であり、変動の波はあるが大きな変化は見られない結果となった。
- 小売業では、▲36.4と前回調査時(▲42.3)から5.9ポイント改善したが前回の見通し(▲34.6)よりは若干悪い結果となった。今後の見通しは▲27.3で、徐々に回復の兆しを感じられる結果となった。
- 建設業では、▲50.0と前回調査時(▲41.2)から8.8ポイント悪化した。今後の見通しも、前回の見通し(▲23.8)よりさらに悪い▲50.0となり、依然厳しい状況となった。

- サービス業では、▲22.2と前回調査時(▲14.3)から7.9ポイント悪化した。今後の見通しも▲27.8と前回調査時(▲23.8)より悪く、引き続き悪化の見通しとなった。

(1) 業況D Iの推移とキーワード

	平成28年度		平成29年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10月~12月)
全産業	▲20.7	▲19.5	▲26.7	▲25.3	▲25.3
製造業	▲5.0	△10.0	▲9.1	0.0	▲4.0
小売業	▲12.5	▲19.2	▲42.3	▲36.4	▲27.3
建設業	▲58.8	▲33.3	▲41.2	▲50.0	▲50.0
サービス業	▲14.3	▲38.9	▲14.3	▲22.2	▲27.8



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	受注減少	人材不足	新規案件
小売業	物価上昇	天候不良	競合店過剰
建設業	人材不足	価格競争	受注減少
サービス業	人材不足	価格上昇	オリンピック需要

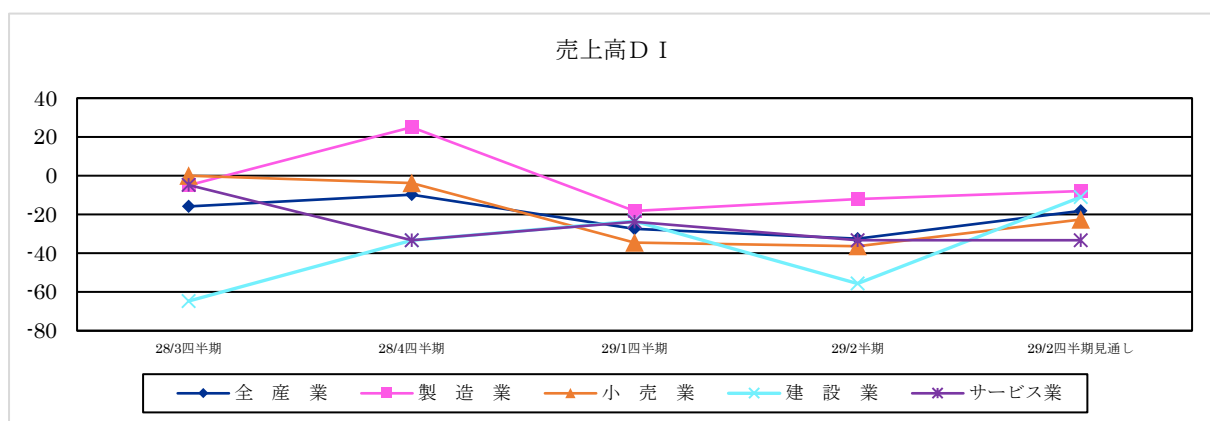
《全国との比較》

	平成29年度第2四半期		今後の見通し(10月~12月)	
	全国(9月)	日立	全国	日立
全産業	▲15.3	▲25.3	▲15.0	▲25.3
製造業	▲10.1	0.0	▲9.0	▲4.0
小売業	▲31.4	▲36.4	▲28.0	▲27.3
建設業	▲7.4	▲50.0	▲8.7	▲50.0
サービス業	▲10.8	▲22.2	▲13.2	▲27.8

(2) 売上高・採算・従業員の推移 (D I 値)

(売上高)

	平成28年度		平成29年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10月~12月)
全産業	▲15.9	▲9.8	▲25.6	▲32.5	▲18.1
製造業	▲5.0	△25.0	▲18.2	▲12.0	▲8.0
小売業	0.0	▲3.8	▲34.6	▲36.4	▲22.7
建設業	▲64.7	▲33.3	▲23.5	▲55.6	▲11.1
サービス業	▲4.8	▲33.3	▲23.8	▲33.3	▲33.3



(採算)

	平成28年度		平成29年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10月~12月)
全産業	▲23.8	▲23.2	▲20.7	▲32.5	▲25.3
製造業	△8.7	▲10.0	0.0	▲12.0	▲16.0
小売業	▲38.1	▲12.5	▲11.5	▲45.5	▲31.8
建設業	▲60.0	▲47.1	▲38.9	▲55.6	▲44.4
サービス業	▲19.1	▲28.6	▲38.9	▲22.2	▲11.1

(従業員)

	平成28年度		平成29年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10月~12月)
全産業	△7.5	△20.7	△20.7	△13.3	△19.3
製造業	△17.4	0.0	△25.0	△16.0	△16.0
小売業	△9.5	△8.3	△11.5	△13.6	△13.6
建設業	△6.7	△35.3	△22.2	△11.1	△27.8
サービス業	▲4.8	△42.9	△27.8	△11.1	△22.2

(3) 業種別概況

業 種	概 況
製 造 業	<p>家電製品関連の低迷は継続中だが、建設用機械・自動車関連や汎用機械、電子部品での受注増が業況を押し上げている。新たな市場の開拓で特に建設用機械関連が好調であるが、原材料価格の上昇や人材不足が足を引っ張っている。</p> <p>個別では「出荷額は対前年より若干減少も、時系列での比較では平均的な出荷額で推移している。(組合)」「将来的な自動車の全面EV化の動きが明らかであり、対応が課題。(自動車製造関連)」「情報系は人手不足が続いている。(システム開発関係)」などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>消費者の低価格・節約志向が続く中、物価上昇や最低賃金の上昇、将来の消費税率アップの懸念もあり採算が非常に難しい状況。</p> <p>台風や長雨などの冷夏の影響による農作物出荷の遅れや、それに伴う値上がりや客足の減少など業況の不安材料は尽きないが、夏休みがあったため学生などで人手不足はやや改善された。</p> <p>個別では、「各種原材料が値上がりをしている。最近の天候不良の影響が心配。(食料品販売店)」「太陽光等、再生可能エネルギーが促進されており、航空機用燃料以外の燃料の減少が続いている。(石油製品販売店)」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>主だった公共事業の前倒し発注が終了し工事数は減少、民間工事もまた受注・価格競争が激化し採算が低下している。慢性的な人材不足は続いており、工期の遅れや一時中断による各種費用など問題の根は深い。</p> <p>個別では、「職人の高齢化により今後の引退が予想される中、若年層が確保できず世代交代が出来ない。(土木工事)」「電力・ガスの自由化による価格競争の激化にいかに対応するかが課題。(設備工事)」などの報告があった。</p>
サービス業	<p>物流関連では、恒常的なドライバー不足が続く中、大手企業の料金値上げによる影響で収支バランスが悪化しないか心配だ。</p> <p>観光・飲食業関連では、材料費・人件費の上昇により採算が難しく、宴会・宿泊利用の回復が見られない現状と合わせて、改善の有効策を模索し続ける苦しい状況となっている。</p> <p>個別では、「恒常的な運転手不足。物量が増加すれば更に拍車がかかる懸念あり(運送業)」「県知事が変わり、観光集客にどのような変化が出るか。茨城国体、東京オリンピックに伴う消費に期待(ホテル業)」「原材料の価格上昇により採算が難しい状況になってきている。(飲食業)」などの報告があった。</p>